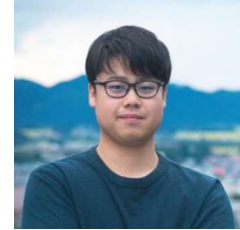


## カブトムシによる循環型の社会の実現

株式会社 TOMUSHI 代表取締役 CEO

石田 陽佑



### 目 次

概要.....	1
はじめに.....	1
1. 20 歳、事業の始まり.....	2
(1) ヘラクレス販売のビーラボ社.....	2
(2) 経費削減から世界を救う決意へ.....	2
2. 株式会社 TOMUSHI 「昆虫の力でゴミを資源化し世界の資源不足を解消する」 ....	2
(1) TOMUSHI が解決する課題.....	2
(2) TOMUSHI の役割.....	3
(3) TOMUSHI の技術.....	3
(4) BCAA の比較.....	4
(5) TOMUSHI の商品.....	4
(6) TOMUSHI 国内プラント数.....	4
3. 協業先／行政活動／アドバイザー企業.....	4
(1) 廃棄物処理.....	4
(2) 昆虫食／飼料.....	4
(3) 行政活動.....	5
(4) その他.....	5
(5) 協業事例 JR 東日本「TOMUSHI のカブクワすごいぞ！！」教育イベント.....	5
4. TOMUSHI の目指す姿.....	5
5. カブトムシとともに実現を目指す未来.....	6
(1) 農業に認定されるために.....	6
(2) 農業認定が叶ったら.....	6
6. 自治体への提案「昆虫でゴミを資源化し町おこし」.....	7
7. 数々の失敗から学んだこと.....	7
(1) 1 社目 ビジョンがなかった.....	7
(2) ビジョンを定めると何が起こるか.....	7
(3) メディアの連鎖.....	8
おわりに.....	8

## 概要

本講演を行う石田氏は子どもの頃大好きだったカブトムシでビジネスを立ち上げ、今や世界が注目するスタートアップ企業の代表者だ。カブトムシでビジネスを考えた場合、繁殖させて売ることが普通の考え方であるが、株式会社 TOMUSHI（以下 TOMUSHI）は農業の問題／産業廃棄物／後継者育成／農家の収入を高める仕組み／世界の食糧問題にチャレンジしようとしている。

カブトムシがどのようにして循環型社会を実現し、地球環境と人々の暮らしに影響を与えていくのか、26歳の起業家はそのビジネスプランを語る。日本の未来、世界の未来に向けてのビジネスの話だ。

### ■ポイント

- ・SDGs
- ・カブトムシ
- ・サステイナブル
- ・循環社会
- ・廃棄物処理
- ・ゴミ問題
- ・地方創生
- ・環境問題
- ・持続可能

## はじめに

まず自己紹介をする。秋田県大館市出身。中学2年時に父親と大喧嘩、家出を決意し母方の祖父母のもとへ。以来12年現在に至る。高校中退、通信で高卒資格を取得。林尚久氏が主宰していた予備校武田塾を経て青山学院大学入学。

ビジネスパートナーである一卵性双生児の兄・石田建佑は高校卒業後就職。敷かれたレールを走っていく人生は面白くないと転職を考え父親と対立後家出、DMM.com社へ転職。一緒に過ごさなかった期間を取り戻すように、兄弟は東京で会う。

大学入学後半年で中途退学し、祖父母の用意していた教育資金にて起業。結果大失敗。同時期に祖父の体調が悪化し、祖母の要請で兄ともども秋田へ。

かつてムシキングに夢中になっていた時期があり、昆虫博士になる夢があった。カブトムシを採りに行くも、街灯がLEDとなった現代では虫が寄り付かず、全く採れず。祖母から「気でも違ったのか」といわれながらも援助を受け、ネットオークションで最初は5万円だったヘラクレスを30万円で購入。さらに先祖代々の土地を売却した祖父母より400万円の資金を得て、カブトムシ屋を起業。カブトムシで大量廃棄物問題を解決すべく、有機廃棄物を食べさせる画期的な開発をしている。

昔の人が畑に生ゴミを捨て堆肥を作り畑に蒔き、春先に掘り返すと幼虫が出てきていたのと同様、農業残渣／畜産糞尿／フードロスのカブトムシの餌に加工する。きのこを栽培した後の廃菌床に独自に研究した微生物を混ぜ、カブトムシの好む土を作っている。カブトムシを掛け合わせ、本来1年かけて成長するところを3か月で同じ大きさとなる驚異的な速さで育つ種を生み出した。現在のカブトムシの飼育数は6万匹以上、その廃棄物の処理量は年間900万トンだ。通常、有機廃棄物は燃やされCO<sub>2</sub>に変わる。TOMUSHIが研究したカブトムシはそれらを食べることができ、糞を出し肥料となる。地球を守るための循環だ。こうした活動の広報のため、ゴミを食べて育つ昆虫展も開催している。

## 1. 20 歳、事業の始まり

### (1) ヘラクレス販売のビーラボ

2019 年、20 歳で 2 度目の起業、ヘラクレス販売のビーラボ社設立。ヘラクレスオオカブトをはじめ珍しいカブトムシを大量に育て、販売を開始。兄が DMM.com 社で培った IT 技術のもと、昆虫ネットショップ開設 2 週間で 7 万アクセス達成。ヘラクレスという単語は検索の量では多いがそれ以上力を入れている企業はなく、半年足らずでヘラクレスオオカブト販売の業界で No.1 の検索順位に。50 以上のキーワードが Google 検索 3 位以上、年間 30 万弱のアクセス。2020 年、昆虫専門情報サイト「ムシペディア」をリリース。

### (2) 経費削減から世界を救う決意へ

#### ①経費増大

カブトムシの幼虫を飼育すると土中にコバエが発生する。大規模に飼育していると飼育部屋にコバエが大量に増殖、入室するだけで耳や目に入り込む数に。コバエもカブトムシの餌を食べるため、経費増大。幼虫の成長に影響しはじめた。当時、銀行がネットショップのアクセス数に期待し融資をしてくれたが、この時点での借入金は 1,600 万円に達していた。

#### ②銀行からの提案

融資が回収不能になることを心配した銀行担当者から、カブトムシの幼虫の餌として農業廃棄物を食べさせることを提案され、飼育に成功。さらに廃棄物をタンパク質という資源に変換し活用することが可能になり、カブトムシで世界を救う決意を固める。

## 2. 株式会社TOMUSHI「昆虫の力でゴミを資源化し世界の資源不足を解消する」

キーワード

#カブトムシ #地方発 #SDG s #農業 #有機廃棄物  
 #タンパク質危機 #プロテイン #肥料 #飼料 #研究  
 #廃菌床 #バイオマス #福祉 #昆虫食 #ヘルスケア

### (1) TOMUSHI が解決する課題

世界の問題 廃棄物の山  
 発展途上国 食糧難  
 先進国 地球温暖化  
 これらをカブトムシで解決する。

現在と 30 年後を比較

【人口】(出典：国連)